

自分の道を見極めて富の流れに乗る



富とはすべてのお金を失った時に残されるモノ

富とは一体なんだろう？香港生まれでアジアを代表するウェルス（富）・コンサルタントであり、自身も7つのビジネスを展開する事業家であるロジャー・ハミルトンは、この問いに端的に答えている。「富とは所有するお金のことではない。富とは所有するお金をすべて失った時に残されるモノ」だと。彼が失敗を重ねた後、20代後半で億万長者になり、30歳でリタイアしてまとめたのが、「ウェルスタイクス」という富の力学だ。

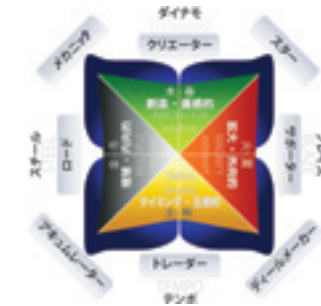
昨年には彼の著書の翻訳版『億万長者 富の法則』が日本でも発売されたので、ご存じの方もいるだろう。ウェルスタイクスでは、富を生み出している人たちは、「お金」を稼ぐ活動より、「富」の土台づくりに力を入れていると説いている。つまり、世の中の評判や、頼りになるネットワーク（情報網、人脈）、

知識、リソース、実績を築くことに時間を割いているという。こうして築いたものが彼らの富を引き寄せるガーデンとなり、この土台であるガーデンがあれば、一時的にすべてのお金を失ったとしても、驚くほど短期間で同程度のお金を引き寄せてしまうのだ。

億万長者の8つのタイプ

ウェルスタイクスでは、億万長者には8つのタイプがあるとしている。クリエイター、スター、サポーター、ディールメーカー、トレーダー、アキュムレーター、ロード、メカニックだ。

まずクリエイターとは、創造することで富を築くタイプ。ウォルト・ディズニーやビル・ゲイツが挙げられる。スターは、独自のブランドで富を築くタイプ。米国オバマ大統領やマイケル・ジャクソンなどがこのタイプ。サポーターは、チームを率いて成功するタイプ。



ロジャー・ハミルトンによる8つのパターン分類

大企業のCEOなどに向くタイプで、GEのジャック・ウェルチなど。ディールメーカーは、直訳すると「交渉人」とおり、人と人を結びつけることで富を得る。このタイプには、ソフトバンクの孫正義などが該当する。トレーダーは、その名のとおり安く買い高く売ることで富を築くタイプで、売買の投資家と言われるジョージ・ソロスなどがある。アキュムレーターは、日本語では蓄財家、職人などと言われるが、価値が上がる資産を集める。こちらには複利の投資家と呼ばれるウォーレン・バフェットや、職人的なメジャーリーガーのイチローなどがあてはまる。ロードは支配者と言われ、お金を生み出す資産を支配することで、富を得るタイプ。世界最初のビリオネアー、ジョン・D・ロックフェラーなどがこのタイプ。最後のメカニックはその名のとおり、技術的な性質で、よりよいシステムを編み出すことで富を得る。代表的なのは、デルの創設者マイケル・デルなどだ。

プロフィール活用法

この8つのプロフィールは簡単なテストで、行動パターンから割り出される。有名人のプロフィールタイプは、その際立った言動や行動特性から、推測が可能だ。ロジャー自身、香港出身のイギリス人と中国人のハーフであり、西洋と東洋の文化双方の流れをそれぞれうまく汲んでいる。ウェルスタイクスもシンプルに見えて、実は五行や易経の概念も取り入れてあり、かなり奥深いのだ。

また、このプロフィールは面白いことに、人以外にも活用が可能だ。企業としてのタイプを確認し、それに応じた戦略を決めることや、組むべき相手を見極めるのにも使える。会社の中での人材活用にももちろん利用できるし、業界全体を見ることもできる。また、同じ会社であっても、その会社の置かれた企業としてのステージによって、その時々に必要なリー

ダーも割り出せる。

日本のプロフィールはなんだろう？答えは職人的な気質のアキュムレーター。アキュムレーターの日本で、アキュムレーターのイチローが国民的英雄だということも納得だ。日本は、華やかな欧米とはともとも資質が違うのだから、自国の道を究めればよいのだ。

自分の道で富の流れに乗る

印刷会社の方などに時々、「今後印刷会社はどの方向に進むべきか？」などとの質問をいただくことがある。その時にいつも、その質問自体に違和感を覚えていた。返答としては「どの道を進んでもいいと思いますよ。それぞれの印刷会社さんがいちばん得意で好きなことを軸にして、そこを強化していけばいいと思います。技術者でもいいし、提案型になってもいいし」と答えていた。

ウェルスタイクスを通して、この質問もクリアになった。成功した起業家、億万長者と呼ばれる人たちにも、8つのタイプがあるのだ。それぞれのタイプがそれぞれのやり方で、富を築いた。印刷会社も、また他の業界においても同じことだと思う。その進むべき道、生かすべき強みは1種類ではない。ウェルスタイクスでは、自分の最も得意なことに特化できる環境を可能な限り早く築くことが、富を築くカギだとしている。儲かりそうだとか、他の会社がやっているからと足並みを揃える必要はない。早く不必要な苦勞を手放し、楽に富の流れに乗ろう。

POINT

- 1 富とはすべてのお金を失った時に残されるモノ
- 2 土台となるガーデンを耕すことに時間を割く
- 3 得意なことに特化できる環境を早く築く